

《 論文募集 》

2012 日中科学技術シンポジウムのご案内

公益社団法人 日本技術士会近畿本部
2012 日中科学技術交流実行委員会

日本技術士会近畿本部は、過去 30 年来、中国の上海市科学技術協会、上海市工程師学会、同済大学他との交流を続けてきました。特に 2006 年以降毎年、中国（上海）と日本（大阪）で交互に、科学技術シンポジウムおよび施設見学の交流を実施しており、今回で 7 回目となります。



一昨年（2010 年）は、50 余名の交流団で訪中し、日中科学技術交流シンポジウムの共同開催と上海万国博覧会を視察し、新たに同済大学環境科学與工程学院と相互協力協定を締結しました。

昨年（2011 年）は、中国から 60 余編の論文参加と 40 余名の来日、総数 110 を超える参加を得て大阪で成功裏に開催することができました。

今年（2012 年）は、日中国交回復 40 周年という節目でもあり、より意義深いものとなります。

今回も、上海で日中共同開催しますが、このたび 2012 年の日中交流を企画するに当たり、当番である中国側から基本テーマとして昨年の議論や提案をさらに深化させるため「持続可能な社会を目指して」Part II としてたい旨提案をいただきました。

エキスカッションは、最近国際的にも注目を集めている崇明島を予定しております。

詳細は未定ですが、崇明島は上海市の長江河口に位置し、台湾島、海南島に次ぐ三番目に大きい島で、且つ世界一大きい沖積島です。面積は約 1267 km²と沖縄本島とほぼ同じ大きさで、上海市総面積の約 6 分の 1 です。

崇明島は、長江から流れてくる土砂により形成され、唐時代（西暦 618 年頃）に海面から姿を現し始め、今の崇明島ができました。現在も、絶え間なく流れてくる土砂の影響で、崇明島の東端は年に約 150 メートル延びており、「成長し続ける島」と呼ばれています。また、島の東部にある崇明東灘湿地は鳥類自然保護区と中国国家地質公園にもなっていて、2002 年 1 月にはラムサール条約登録地となりました。



2002 年、上海市は、『崇明島域全体発展計画』を発表しました。この計画は、島を 5 つの区に分けるというもので、生態モデルやレジャースポーツを主体にした「景観区」、森林の中のリゾート、事務、レジャー休暇を主とした「中央森林区」、テーマ樂園と生態農業を主とした「樂園観光区」、島の住民と産業が集まる場所の田園式の「中心区」、国際会議、浜湖でのリゾートを主とする「湖を望むリゾート区」です。

さらに、2005 年には上海市による『崇明三島総合開発計画』、2009 年に上海長江大橋と上海長江トンネルが開通、崇明生態島建設計画（2010-2020）では、生態島を上海の今後の発展の備蓄エリアと位置づけ、ニューヨーク州のロングアイランド島、カ

ナダのバンクーバー島、香港の米埔湿地などの発展モデルを分析し、『崇明生態島の建設科学技術を支える実施案』を作成

- ・低炭素コミュニティの建設
- ・低炭素農業の発展
- ・新しい観光発展モデルの探求

の3点から低炭素社会の実現に向けた実践に取り組み、国内外の技術サポートや国内の政策支援のもとでインフラや施設建設、農業、産業、観光の分野において低炭素発展を実現し、従来の工業化を乗り越えて、生態型の現代的な発展、世界のモデル都市（エコライフモデルシティ）を目指しています。

（美しい自然環境のもとで経済発展させ、都市と農村が一体化した、「都市生態島区」）



折しも日本は、2011.3.11 東日本大震災と原発事故を経験しました。復旧・復興を図る上でもグローバルな視点が必要です。ぜひこの日中交流にご参加くださるよう、ご案内申し上げます。

1 テーマについて

主テーマ：「科学技術の創新と都市の持続可能な発展」

特別講演 崇明島低炭素国際実験自然共同区について（仮題）

趣旨：上海市を持続的に発展させるために、今崇明島で様々な実験が行われている。
この内容について専門家が講演する。

分科会：

第一分科会：都市の公共安全とリスク管理

- ・都市の総体計画と公共安全管理対策
- ・都市のインフラストラクチュアと総合防災能力
- ・都市の発展を支える電力供給・給水・排水システム及びその工程技術
- ・都市の地下鉄運営における安全及び防災と救災
- ・大型及び重要建築物の防災に関する主要技術及び災害発生後の処理技術
- ・建設工程における超大型地震災害に備える総合応用技術
- ・全員参加による都市公共安全管理への有効な手法 等

第二分科会：新エネルギーの開発と有効利用

- ・新エネルギー開発の重要性と必要性
- ・原発の設計、安全な核設備の製作
- ・風力発電の利用とその主要技術
- ・大型風力発電基地の建設
- ・太陽エネルギーの研究開発と設備技術
- ・コンポスト発電について
- ・バイオマスエネルギー、地熱エネルギー、潮汐エネルギー等の合理的な開発と利用 等

第三分科会：省エネ、排出削減に関する主要技術と対策措置

- ・地球気候変動に対応する省エネ、排出削減

- ・エネルギー多消費型大型設備の省エネ、排出削減施策
- ・地球温暖化防止に対応する相応技術（CO₂の排出削減、CO₂の地中埋設等）
- ・省エネ建築設備の運行管理と運行効率
- ・建築に関わる各種エネルギーの利用方法とその比較
- ・石炭、石油、天然ガス等一般エネルギーの清浄化措置
- ・エネルギー契約の管理 等

2 実施日程

(1) 論文募集日程

申込期限・・・2012年03月30日(金)

提出期限・・・2012年05月11日(金)

注 応募論文は原則として前刷論文集に収録。日本側の発表論文は実行委員会にて選定し当事者に通知。
発表はPPTによる(提出は6月7日(木))。申込みは添付の論文申込シートに記入し、公益社団法人
日本技術士会近畿本部にE-Mail 又は FAX にて行う。

(2) シンポジウム

2012年6月21日(木) : シンポジウム

2012年6月22日(金) : エキスカーション

注 参加申込は、別途。

3 主催、共催、後援等

主催：日本技術士会近畿本部、上海市科学技術協会、上海市工程師学会、
後援等（調整中）：大阪府、大阪市、大阪大学上海教育研究中心

(文責；森下)



◆ 論文申込シート ◆

公益社団法人 日本技術士会近畿本部

2012日中科学技術シンポジウム

「持続可能な社会を目指して」科学技術者は何ができるか

◇論文申込◇ 申込期限：2012年3月30日(金) 提出期限：2012年5月11日(金)

氏 名	
所 属 等	所属等； 連絡先；TEL E-mail
部門・専門等	
希望の分科会	
論文題名	
要 旨（論題紹介） （和文200字程度）	

注1：提出論文は、原則として全て論文集に掲載の予定

注2：日本側発表論文は、実行委員会にて選定。パワーポイント使用
(提出は2012年6月7日(木)必着)

◇申込先◇ 公益社団法人 日本技術士会近畿本部 〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-9-15
TEL 06-6444-3722 FAX 06-6444-3740 E-mail pe@ipej-knk.jp

※ 個人情報は、法令等に基づき適正に取り扱います。

論文作成要領

2012日中科学技術交流行委員会

1 提出形態

電子媒体 (MS-WORD)

2 提出期限

2012年05月11日(金)必着 (遅れると前刷論文集に掲載できません)

(メールに添付、E-mail 送付先：近畿本部 pe@ipej-knk.jp)

3 用紙サイズ

A4版 4ページ以内 (図表、写真等を含む)

4 使用言語

執筆者の母国言語を原則とする (英文可)

5 ページ設定

① 余白は、 上 30mm 左 25mm 右 25mm 下 25mm

② 本文文字サイズは 10.5 ポイントを基本とする

③ 使用フォントは、日文-MS 明朝 (題名などは MS ゴシック)、中文-適宜

英文-Times New Roman

④ 44 字/行、44 行/ページ 程度

題名 (12 ポイント)

Title (英文、12 ポイント)

氏名

所属等・Mail address

Abstract : (英文 300words 以内)

Key words : (英文)

本文 (母国語)

参考文献 : (9 ポイント)

略歴 :

ポイント表記のないものは 10.5 ポイント